知って備える 防災メモ 第87回

危険からいち早く遠ざかるために

登別市の豊かな自然は、多くの恵みをもたらしてくれる一方で、洪水や土砂災害、噴火など、さまざまな災害が発生する可能性を秘めていることも忘れてはいけません。

自分が住んでいる場所や長い時間を過ごす職場・学校などの地域の特性を把握し、危険性が高まった場合にどの避難場所に、どのような経路で避難すればよいかなどをあらかじめ確認することが重要です。

さまざまな災害を想定して

市は、津波や洪水のほか、土砂災害や噴火による被害の発生が予測される区域などを市内地図に反映した『登別市防災マップ』を作成し、平成26年に全戸配布したほか、市への転入時などに随時配布しています。

防災マップには、屋外の避難場所（指定緊急避難場所）や屋内の避難所（指定避難所）、津波のおそれがある場合の高台の避難所などを掲載しています。どの地域にどのような災害が発生するおそれがあるのか、また、その危険が高まった場合にどこに避難すればよいのかを日頃から確認しておくことが、いつ起きるか分からない災害への備えとなります。

▲登別市防災マップ

市民の生命と安全を確保する避難所

市は、大規模な災害の発生、または発生するおそれがある場合に、市民の皆さんの生命と安全を確保するため、災害の種別や発生場所などを考慮し、指定避難所を開設します。

開設した場合は、防災行政無線や登録制メール、テレビ、ラジオなど、さまざまな媒体を通してお知らせします。なお、防災行政無線の放送は、確認用ダイヤル（☎㉟０１９３）で聞くことができます。毎月、実施している情報伝達訓練時についても、利用できますので、お試しください。

（通話料がかかります）

▼問い合わせ　総務グループ（☎㉟１１３０）

とうほんせいそう
東奔西走

世界につながる『きずな』

友好都市『広州市』からの支援物資

3/19·26

登別市の友好都市・広州市より3月19日㈭に支援物資として『マスク』5万枚、また、26日㈭には、『非接触体温計』200本が届けられました。

平成12年、当時の登別観光協会（現・登別国際観光コンベンション協会）が広州市を訪れ、観光客誘致プロモーションを行ったことをきっかけに、特に観光分野において双方の交流を積極的に行ってきた2市。平成24年には、より幅広い交流を促進するため、『友好都市協定』を締結し、継続的な交流を図っています。

中華人民共和国で新型コロナウイルスの感染が相次いでいた2月21日には、登別市から広州市へ『ビニール手袋』2万枚を送付しており、マスクとともに届けられた広州市長の親書には、「国際友好都市の証として示された心温まる支援は、広州市民の気持ちを鼓舞し、ウイルスとの戦いに必ず打ち勝つという気持ちを後押ししてくれた」としたためられていました。

届けられたマスクは、市内の福祉施設や医療施設などに配布し、非接触体温計は公共施設などに設置し、感染拡大防止の一役を担っています。

▲市役所に到着したマスク

▲肌に触れることなく、数秒で検温できる非接触体温計